第173号　二〇一五年　六月二〇日発行

福音の園だより

▽埼玉県認定：シニア活躍推進宣言企業△
平成18年度「高年齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞
平成27年度「介護職員確保・定着の為の優れた取組」表彰

グループホーム・共用型デイサービス介護事業者指定
350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人 福音の園・埼玉　事務局
☎049-230-1111（FAX230-1112）

詩画作家・星野富弘氏の詩画作品を展示します

群馬県みどり市立「富弘美術館」の協力を受け、「富弘美術館を囲む会」埼玉県支部により、第一事業所に2点、第二事業所に3点の「星野富弘詩画作品」を展示します。

日日草

不慮の事故による長い入院生活からふるさとに帰った星野富弘を迎えてくれた自然。四季折々に咲く野の草花は、絶望の淵に立ち尽くした彼を生きる道へと導いてくれました。その自然を描いた詩画作品は、「生きることのすばらしさ」「生きる勇気」を与えてくれます。

展示作品は、年に四回入れ替える予定です。お越しの際はぜひご覧ください。

福音の園のホームページはこちら⬇
www.gospelgarden-fukuinnosono.com

星野富弘氏プロフィール

一九四六年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。群馬大学教育学部卒業後、中学校の体育教諭になるが、クラブ活動（器械体操）の指導中、模範演技で空中回転したとき誤って頭部から転落。頸髄を損傷。首から下の自由を失う。

入院中、口に筆をくわえて文や絵をかきはじめる。退院後、雑誌や新聞に詩画作品やエッセイの連載を始める。一九八二年、高崎で初の「花の詩画展」を開催以降、全国各地、また海外でも開催され、現在も続いている。

一九九一年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に富弘美術館開館。二〇〇五年、富弘美術館新館開館。二〇〇六年、群馬県名誉県民。二〇一一年、群馬大学特別栄誉賞。二〇二一年、入館者七〇〇万人を突破。二〇二四年、逝去。みどり市名誉市民。

著書に「愛、深き淵より。」「風の旅」「詩画とともに生きる」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」「あなたの手のひら」「花よりも小さく」「種時きもせず」「足で歩いた頃のこと」「山の向こうの美術館」「いのちより大切なもの」ほか多数。

群馬県みどり市立富弘美術館

1　グループホーム福音の園・川越
［川越市木野目一八七八番地一　049-230-1111］
2　グループホーム福音の園・川越第二
［川越市喜沼かいぬま二六九二番地一　049-293-7528］

「富弘美術館を囲む会」埼玉県支部

福音の園・川越　管理者　佐川 裕明

私は、二〇〇八年より星野富弘さんの「花の詩画展」の実行委員として活動を始め、二〇一五年より「富弘美術館を囲む会」軽井沢支部長を務めました。通信制の八洲学園大学で博物館学等を学び、富弘美術館で実習して二〇一七年に博物館学芸員資格を取得しました。同時に、富弘美術館また富弘さん公認の「ボランティア学芸員」として、富弘美術館や各地詩画展の展示、学校等で講演活動を行っていました。

二〇二〇年に埼玉県鴻巣市に転居することになり、「囲む会」の活動はどうするか迷いました。迷った結果、新たに支部をつくり活動していくことを決意しました。名称は当初、「鴻巣支部」にしようかなと考えていました。しかし、二〇二一年秋、富弘さんにご挨拶に伺った際、富弘美術館の聖生清里館長より「『鴻巣支部』ではわかりにくい。『埼玉県支部』がよい」との「鶴の一声」があり、富弘さんも公認のもと「埼玉県支部」となりました。

二〇二四年からは川越勤務となり、いつか川越市で「花の詩画展」を開催したいと夢見ています。夢は大きく持ちながら、小さな活動を少しずつ重ねています。今回の「星野富弘詩画作品」展示もそのひとつです。今の私に「できること」は小さなこと、でもそれを感謝してできたら、きっと大きなことだ」（小さな実〈ぐみ〉）を実践しています。

小さな実（ぐみ）